

新たな潮流
総合討議

座長： 今日は大変内容の濃い発表をして頂きました。

それぞれ全く別のテーマでご発表頂きましたけれども、一つキーワードで括るとすると、情報という物の問題に関わっていたと思うのです。

最初の清水先生のお話は、情報と医療プロセスをどうやってマッチングさせるかという問題でした。ただしその場合には、既にその情報は、プロの先生たち、お医者さまによって、適切に処理され判断されたというところからのスタートだったわけですが、会場の方から、あるいは私自身が申し上げましたように、患者さんの保護者がどうやって判断をするのか、あるいは、救急に従事されている方々がどうやって判断するか、その質が大変大きく医療結果に影響している。ご発表の中にありましたとおり、その辺の問題がまだ残されておりますけれども、情報と医療プロセスのマッチングがおそらくトライージというプロセスを経て、効率ということに結びつくのかかもしれません。

青木先生、それから今の高橋先生のお話は、プロの現場で積み上げてきた医療情報、あるいは知識・知恵といったものを、実際に患者さんにどうやって伝えていくか、ある意味でこれは教育という言葉で表現するのもかもしれませんが、どのように効果的に伝えていくのか。これを最近のITを使って工夫されたということだろうと思います。

それからもう一つ、坂田先生のご発表はサインデザインということで、決してデザイナーの領域だけの問題ではなく、医療システムの極めて重要な一部だという視点に立って、それではデザインをどうしていくのか。先ほどデザインというのは「DE-SIGN」だにご指摘になられた通り、医療システムを円滑に進めていくために、サイン、デザインが極めて大きな役割を果たすことが分かりました。

以上、私の独断で括らせていただければ、『情報の重要性』というキーコンセプトにまとめられるのではないかと思います。長いこと、大変立派な発表、それからの的確なご質問あるいはコメントを有難うございました。これでこのセッションを全て終わりにさせていただきます。